

従業員のライフイベントを尊重した働き方とは？



従業員がキャリアを築いていく中で、結婚、出産、育児、介護などのライフイベントを迎えても、企業側が安心して長く働き続けられる職場を提供することはとても大切です。

「ここで働きたい」「ずっと働きたい」と思える環境を整えるために、企業にはどのような取組ができるでしょうか？「ライフイベントとの両立」という視点から、働きやすい職場づくりについて考えていきます。

なぜ従業員のライフイベントを尊重した働き方が重要か



□ 共働き世帯の増加

共働き世帯は2021年の調査で1,247万世帯あり、2000年前後の900万世帯と比較して約40%も増加しています。この増加に伴い、育児や介護などの家庭生活と仕事を両立できる支援の重要性が高まっています。(P45参照)

□ ビジネスケアラーは労働人口21人に1人

ビジネスケアラーは、現役世代である40代・50代が中心で、介護に費やす時間は1日2時間以上と言われています。介護を担う従業員に就業を継続してもらうためには、企業による仕事と介護の両立支援が不可欠です。(P48参照)

従業員のライフイベントを尊重した働き方に取り組む企業側のメリット

□ 従業員の定着率向上・離職率の低下

- ・キャリアパス明示や働きやすい環境が整っていると、ライフイベントを理由に離職するケースが減少し、優秀な人材の流出が防げます。
- ・キャリア形成支援に取り組むことで、企業の安定的な成長を支える経験豊富な従業員の確保につながります。

□ 採用力の強化

- ・労働力不足が課題となる中でも、柔軟な働き方を提供できる企業は優秀な人材を確保しやすくなっています。



□ 生産性の向上

- ・従業員が安心して働ける環境があると、仕事へのモチベーションが高まり、パフォーマンスの向上が期待できます。
- ・タスクやスケジュール管理の共有、リモートワークなどを導入することで、業務の効率化が進みます。

□ 企業ブランド・イメージの向上

- ・働きやすい環境を提供する企業は社会的評価が高まり、ESG経営の一環としてもプラスに働きます。
- ・「働きがいのある企業」「家族に優しい企業」としてのブランド価値が高まります。

従業員のライフイベントに対し企業が取り組むこと

● 多様な働き方ができる仕組みづくり

例) 在宅勤務・テレワーク・フレックスタイム制度 など

● ワーク・ライフ・バランスの推進

● 女性活躍推進施策などについての情報収集

例) 他企業の取組状況、国の施策 など

企業が従業員のライフイベントとキャリアの両立支援に取り組むことで、従業員が自身のキャリアを主体的に考え、スキルアップや成長意欲が高まり、企業の人材育成の質が向上。組織全体の競争力強化にもつながっていきます。

キャリア形成支援の詳細はこちらから

厚生労働省: 企業・学校等においてキャリア形成支援に取り組みたい方へ



【働き方に影響しやすいライフイベント】

働き方に大きな影響を与える「4大ライフイベント」と呼ばれるものがあります。これらのライフイベントは、従業員のキャリアにどのように関わるのでしょうか？

まずは、その4つのイベントをチェックし、実際に従業員が影響を受けた際に、御社で安心して働き続けられる環境が整っているか、一度考えてみましょう。

Life Events 01 | 結婚

共働き夫婦が増える一方で、結婚を機に働き方を変える夫婦も少なくありません。たとえば、二人で生活する住居を決めるとき、引っ越しを余儀なくされ、今の職場で働き続けるのが難しくなることも。

また、配偶者の転勤を受け、これまでと同じ働き方ができなくなるケースもあります。



Life Events 02 | 妊娠・出産

妊娠・出産は女性にとってキャリアに大きく影響するライフイベントです。つわりや産後うつなど、体調の変化で思うように働けないことがあります。そのため、一時的に仕事を離れることになり、「職場に迷惑がかかる」「職場に戻れるだろうか」という不安から退職を選ぶ人も少なくありません。

また、パートナーや家族が働き方を変え、妊産婦を支えるケースもあります。



Life Events 03 | 子育て

子育てが始まると、子どもの急病時の対応などを考慮するようになります。そのため、現在の職場で働き続ける人もいれば、仕事と家庭の両立に悩み転職やパート勤務を選ぶ方も増えます。子どもの就学後には、再び正社員を目指し再就職に踏み出す人もいますが、新しい職場を見つけられるか、フルタイム勤務に耐えられるかといった不安を抱える方も少なくありません。



Life Events 04 | 家族の介護

両親や祖父母等の介護は、働き方に大きく影響するライフイベントのひとつです。継続的に介護を行うためには、身体的、経済的な負担がかかります。

また、子育てと違い、介護は終わりが見えにくく、介護専門職とのコミュニケーションや見守りなど精神的な負担もかかりやすいもの。仕事との両立が難しく感じる方も多いのではないのでしょうか。



【不妊治療と仕事の両立】

不妊の原因は、男性にある場合、女性にある場合などがあります。

不妊の検査や治療を受けたことがある夫婦は4.4組に1組。「仕事の日程調整が難しい」などの理由から仕事と両立できなかった人は26.1%います。

男女ともに妊娠にいたる割合は年齢があがるにつれて低下します。そのため、不妊治療に集中するために離職を考える人もいます。



詳細はこちらから

厚生労働省: 不妊治療と仕事との両立のために



子どもを望んだときに後悔しないために知っておきたい【プレコンセプションケア】

「プレコンセプションケア」とは、体や心の状態を知り、将来子どもを持つ可能性も考えて健康に向き合うこと。

若いうちから自分で健康管理をすることで病気を早期に見つけることができます。

また、企業は妊娠・出産を見据えたキャリア形成支援を行うことで、キャリアの中断や喪失を防ぐことができ、離職防止につながります。



詳細はこちらから

こども家庭庁: プレコンセプションケア



岡山県: パンフレット「未来への選択肢」

